

# 関係団体ヒアリング 平和分野（報告）

- 1 日時 令和元年9月18日（金）14：30 ～16：30
- 2 場所 RECNA 会議室
- 3 団体名 RECNA
- 4 参加者 RECNA 教授 3名  
関係所属 平和推進課、被爆継承課 3名 合計6名



## 参加者の主なご意見

### ✿10年前から良くなったこと✿

- ◆ 核問題について、大学、県、市と連携し、オール長崎で取り組んでいること。
- ◆ 核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)が設立された。
- ◆ ナガサキ・ユース代表団が海外にも定着してきた。
- ◆ 若い人、大学生の層で核問題を考える層が少なかったが、スタディツアーで来た大学生や海外の要人等と話ができるレベルの大学生が育ってきている。

### ✿10年前から悪くなったこと・最近困っていること✿

- ◆ 会合に来られる方が固定化している。
- ◆ 被爆者が高齢化しているが、NGOで活動している人たちも高齢化している。若者を育てるプログラムがほぼないため、若者が育っていない。
- ◆ ナガサキ・ユース代表団がいても、少数であり、まだ知られていない。発信力を持っている若い人達の層がもっと欲しい。
- ◆ SNSで情報を発信しようとしてもそんなに広がっていない。工夫しないと届かない。

- ◆ 活動をしたい人がいても、情報を収集するのが難しい。
- ◆ 世界遺産登録により、海外からの観光客が増えているが、原爆資料館の入場者数は減少している。
- ◆ 平和問題で活動をしている学生がミーティングしたい時に使える場所がない。

## ✿これから 10 年間、市にして欲しいこと✿

- ◆ 歴史を持った空間として何が出来るか、被爆地である役割、義務を整理したうえで、被爆地長崎として発信していく必要がある。
- ◆ 人材育成が大事である。核軍縮教育は大事にしていきたい。大学だけではなく、市のバックアップも必要である。
- ◆ 国際機関の事務局を誘致してほしい。
- ◆ 核兵器禁止条約が(平成 29 年 7 月 7 日に)採択後、2年経過しているが、今年の 7 月 7 日にはメディアに取り上げられたが、最近は話題になっていない。メディアで取り上げられても、夏のイベントで終わってしまうので、通年的に動くことができる仕組みを作る必要がある。
- ◆ 若い人が集まるように、SDGs と非核の問題をうまくリンクさせ、長崎の物語を示したうえで、SDGs と非核の問題をつなげるような、ストーリーをうまく作っていくとよいと思う。
- ◆ 自分が関わることで何かが変わるという思いを持てるような打ち出し方が必要である。
- ◆ SNS だけでは情報がひろがらないので、人とつながりながら、情報を発信していく必要がある。
- ◆ ネットワークを作る等、コーディネートができる人が、3人程度いるとよい。
- ◆ 平和問題で活動をしている学生がミーティングしたい時に使える場所を提供してほしい。
- ◆ いろいろな遺稿や証言集がばらばらに保管されているので、資料として見るときに、一か所で見ることができるような仕組みがあるとよい。
- ◆ 人が長崎に集まるように、インフラを整えて、テレビや映画のロケを倍増するとよいと思う。

## ✿これから 10 年間自分たちでしたいこと✿

- ◆ RECNA が設立され8年間経過した中で、成果や今後のやり方について検証する必要がある。
- ◆ 小さなイベントでもネットワークを使えば広がるので、ネットワークを作っていきたい。
- ◆ 大学院ができたので、核軍縮の研究をする専門家を育てていきたい。(日本中、世界中から核軍縮の研究をするなら、RECNA に、長崎大学に来ようというぐらいにならないといけない。)